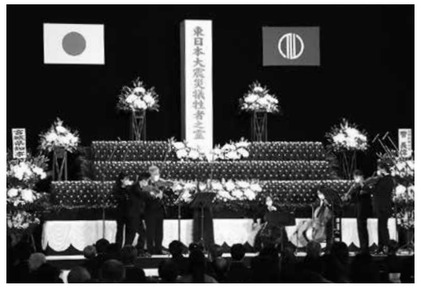
市政トピックス

鎮魂の祈りと復興への誓い
―東日本大震災仙台市追悼式

未曽有の被害をもたらした東日本大震災の発生から10年となる3月11日、宮城野体育館で市主催の追悼式が開かれました。会場では、検温や手指消毒など、新型コロナウイルスの感染対策を講じるとともに、追悼式の様子を勾当台公園市民広場に設置した大型ビジョンなどで中継しました。式典にはご遺族と招待者256人が参列し、地震発生時刻の午後2時46分に全員で黙とうをささげました。

郡市長は「震災から10年、二度と同じ悲しみを繰り返さないとの強い決意で、被災地域の皆さまをはじめ多くの方と復興の道を切り開いてきました。震災の経験と教訓を次の世代に継承するとともに、市民の皆さまの多様な力と思いを重ね合わせながら、仙台の輝かしい未来に向けて挑戦を続けていくことを誓います」と式辞を述べました。続いて、嶋中貴志市議会副議長の代読により鈴木勇治議長の追悼の辞がささげられ、発災時に市長であった奥山恵美子前市長からも追悼の言葉が述べられました。若林区の佐藤稔さんは遺族代表として震災から10年の思いを述べました。また、仙台フィルハーモニー管弦楽団による献奏や、参列者の献花が行われました。



▲仙台フィルハーモニー管弦楽団による献奏

区役所や勾当台公園などに設置した献花場には、合わせて約7800人の方が追悼に訪れ、犠牲となられた方々のご冥福をお祈りしました。

市政トピックス

詩を通じて海洋プラスチックを考える

1月29日から3月24日まで、せんだいメディアテークで「テトラとリリック　仙台から見る海洋プラスチックのいま」が開催されました。これは、海に流入したプラスチックごみの海洋生態系への影響を懸念する海洋プラスチック問題への関心を高めようと、本市を拠点に活動する音楽家・HUNGER（ハンガー）氏の協力を得て企画されたもの。

定禅寺通に面した会場入口のガラスの壁面には、海洋プラスチックをテーマにしたHUNGER氏のリリック（詩・歌詞）の作品を掲示。マイバッグの使用などプラスチックごみ削減のポイントなどが書かれた段ボール製の実寸大消波ブロックや、本市のプラスチックごみの現状や取り組みなどを紹介するパネルも展示されました。

会場を訪れた人は、足を止めて作品をじっくり鑑賞したり、消波ブロックを興味深く見たりしながら、プラスチックごみ削減への理解を深めていました。

市政トピックス

仙台防災未来フォーラムを開催

3月6日・7日に仙台国際センターを会場に「仙台防災未来フォーラム2021」が開催されました。7回目となる今回は「東日本大震災から10年　よりよい未来のために」をテーマに、シンポジウムやワークショップなどが行われ、新型コロナウイルス感染症対策として一部の発表はオンラインで行われました。

「東日本大震災から10年　復興施策の評価と次の10年への展望」と題したシンポジウムでは、復興庁事務次官・由木文彦（ゆき）氏による被災地の現状と課題についての基調講演や、震災経験の継承などをテーマにしたセッションを実施。復旧・復興の取り組みや風化が進む中での国内外への発信の必要性などの説明に、参加者は真剣に耳を傾けていました。また、段ボール製のジオラマを用いたワークショップでは、仙台のジオラマを組み立てながら、身近な地域の地形の特徴を学び、地震や大雨災害時の危険性などを確認していました。

▲親子で防災をテーマにした謎解きゲームにも挑戦

そのほか、防災・減災に取り組む団体の活動発表やブース展示、科学実験を交えたステージショーなど多彩なプログラムが行われ、参加者は、震災当時を振り返り、改めて防災・減災の大切さを学んでいました。

市政トピックス

令和3年度の主な組織改正（4月1日付）

主な組織改正は次のとおりです。

新型コロナウイルス感染症をはじめとした危機事案やコロナ禍による社会変容に応じた対応のために

●危機管理局の新設

感染症拡大や、多発する大規模な自然災害等の危機事案に対する対応力をさらに強化するため、危機管理室（部相当）を「危機管理局」としました。

●保健所の体制強化（健康福祉局）

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、健康危機管理対策に関して、より的確な業務遂行体制を構築するため、健康安全課を分割し、「健康安全課」および「感染症対策室」としました。

●デジタル戦略推進室の新設（まちづくり政策局）

デジタル化の動きを一層加速させるため、「デジタル戦略推進室」（部相当）を新設しました。

技術職員の人材育成等の推進のために（都市整備局）

●技術管理室の体制強化

技術職員の人材育成や発注工事の品質確保等を全庁的に推進するため、課相当の技術管理室を部相当としました。

地球温暖化対策に資する取り組みを強化するために（環境局）

●地球温暖化対策推進課の新設

地球温暖化対策の取り組みを強化するとともに、再生可能エネルギーの利活用を推進するため、環境企画課地球温暖化対策係およびまちづくり政策局防災環境都市・震災復興室エネルギー政策担当を統合し、「地球温暖化対策推進課」を新設しました。

持続可能な公共交通の確保のために（都市整備局）

●公共交通推進課の分割

持続可能な公共交通の確保に向けた取り組みを強化するため、公共交通推進課を分割し、「公共交通推進課」および「地域交通推進課」としました。

地域課題の解決のために（宮城総合支所・秋保総合支所）

●宮城総合支所地域活性化推進室の新設および秋保総合支所総務課地域振興係の分割

地域づくりに係る事業をより推進するため、青葉区宮城総合支所に「地域活性化推進室」（課相当）を新設するとともに、太白区秋保総合支所総務課地域振興係を分割し、「地域活性化推進係」および「地域生活係」としました。

●各組織の業務内容は4月1日から市ホームページでもご覧いただけます

3・11震災文庫を読む 41

東日本大震災を語り継ぐため市民図書館に設けた「3・11震災文庫」。所蔵する約1万冊から、よりすぐりの本をご紹介します。

人間の魂の記録／不条理の世界を描く

河北新報社紙面管理部　佐藤　昌明

「震災のうた　1800日の心もよう」

河北新報社編集局／編
河北新報出版センター　刊

大震災から5年目、河北新報・短歌（かだん）ページの作品から選者の佐藤通雅さんと花山多佳子さんが650首を選んで歌集にまとめました。

「妻の名をこころに叫びさがしている巨大津波の瓦礫（がれき）のなかを」（石巻市・男性）「悪夢なら覚めよとめぐる安置所に姉の遺体の柩（ひつぎ）にまみえぬ」（亘理町・女性）。選者の佐藤さんは「投稿歌一枚一枚に涙した。震災詠（さいえい）は人間の魂の記録」と語る。

「校庭の除染を終えしキャタピラの影なお重き五年の月日」（福島県南相馬市・男性）。原発事故被災地の風景。「5年過ぎても何も終わっていない」と花山さんは言います。10年目を迎えても、何も解決していません。

「犠牲のシステム　福島・沖縄」

高橋哲哉／著
集英社新書　刊

なぜ原発事故は福島で起きたのか、なぜ人は米軍基地を沖縄に押し付けるのか、福島と沖縄を舞台に不条理の世界を描いています。

著者は哲学者で、いわき市に生まれ、小学時代は富岡町で過ごしました。「原発問題と、生まれ育った土地を切り離しては考えられない」と言います。ある者の利益が、他の者を犠牲にして生みだされるのを「犠牲のシステム」と定義、原発事故はこの上で起きました。国家という共同体の「尊い犠牲」の下、150年前の戊辰（ぼしん）戦争では福島・会津が犠牲を強いられました。そして現代の沖縄の基地問題。「大事なことは、（一方が一方に押し付け続ける）システム化をやめさせることなのだ」と訴えています。

●紹介した本は、市民図書館でご覧いただけます　問市民図書館☎261・1585